令和４年度

農作物病害虫防除速報 №１

発表日：令和４年４月８日

水稲 編－１

岩手県病害虫防除所

今後の気温が平年より高いことが予想されます。細菌病類の発生を防ぐためにハウス内の温度管理を徹底しましょう。

現在の状況

１　昨年の籾における細菌病類の検出率は平年並である。

２　向こう１か月（４月９日～５月８日）の平均気温は高い見込みであり、高温性の病害である細菌病類の発生に注意する必要がある。

防除対策

１　**催芽・出芽時**は、催芽・出芽器内の温度を実測して30℃を超えないように管理する。

２　育苗期は、特に**緑化中の被覆**による温度管理に注意する（ハウス内温度日中20～25℃）（表１）。

３　緑化後は、育苗ハウス及びトンネルの開閉をこまめに行い、育苗温度は25℃を超えないように管理する（外気温が低くても日照がある日では、ハウス内の気温が外気温より大幅に上昇するので注意する）。

４　育苗時の高温や過かん水は発病を助長するので避ける。

５　プール育苗は、細菌病類の発生を抑制するのに効果的である。

６　プール育苗では、緑化終了後２～３日以内に入水（水深は培土表面より下）し、第１葉が抽出し、第２葉が出始めたら十分な湛水深（培土表面より上）を確保する。

７　イソチアニル粒剤（箱施用剤）の播種前又は播種時（覆土前）処理を細菌病に適用のある種子消毒剤と併せて実施すると防除効果が高まる。

８　発生したら本田に移植せず廃棄する。

写真　細菌病の病徴（出葉異常、脱色）

表１　細菌病の発生と緑化期の外気温との関係（Ｒ１）

緑化期間[2]	発病箱率	気温[3]（℃）		
	（%）	平均	最高	最低
4/7～8	2.2	5.9	12.7	-1.3
4/11～12	1.0	4.2	11.0	-1.6
4/13～14	**5.0**	**8.5**	**17.7**	**-0.9**
4/14～15	**7.7**	**10.0**	**16.9**	**3.7**
4/15～16	3.5	10.0	15.5	4.5
4/16～17	**9.1**	**11.0**	**19.6**	**0.8**

１）細菌病が多発したＡ育苗センターで調査。緑化期に高温で経過した育苗ハウスで細菌病が多発していたことを確認。

２）すべての緑化時はシルバーマルチで２日間被覆

３）緑化期（２日間）の平均（アメダス観測値）

【利用上の注意】

本資料は、令和４年４月６日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

・　農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。

・　農薬使用の際は（１）**使用基準の遵守**　（２）**飛散防止**（３）**防除実績の記帳**を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】ＴＥＬ　0197(68)4427　ＦＡＸ　0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html